

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年 9月 6日

公表: 令和6年 9月 20日

事業所名 シュウエール新丸子

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	課題に対し工夫や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	1	0	適切である
	2	職員の配置数は適切である	11	1	0	適切である
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	8	4	課題として急な階段がある(17段)。必要に応じて検討していきたい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	4	1	毎日支援記録やスタッフ間の情報共有にて把握している
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1	1	教室会議にて話し合い改善につなげている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	1	1	とりまとめ次第ホームページにて公開している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	6	外部による第三者評価は実施していない。必要に応じて行っていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	3	0	教室会議や研修の時間を作り支援の向上に努めている
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12	0	0	契約時や面談(半年に1回)などで保護者と情報交換している
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	2	1	契約時保護者にアセスメント表を作成して頂き、聞き取りにて状態把握に努めている。日々の記録を「支援記録」として記載しスタッフ間で共有している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	2	0	定期的に学習会議を開き、より良い支援が出来るように務めている。イベント係があり充実した過ごしができるよう努めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	1	1	子ども一人ひとりの安全を最優先で考えつつ、プログラムの幅を広げていけるよう取り組んでいる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	4	1	平日では一人ひとりの様子を見て細やかな支援をしている。休日では学習と遊びの時間をバランスよく取り入れる事が出来ている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12	0	0	子ども一人ひとりにあった活動、支援を展開し、安心して過ごせる環境を提供できるよう努めている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	5	0	十分に確認できている(申し送りを実施)内容が変更になる事が多いがその都度全体に向けて発信し、職員が理解できている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	6	2	・何か特記事項などがあった際や共有しておくべきことについては全体メールなどを使用し情報の共有に努めている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	0	1	支援記録・学習記録を毎日1人1人記録し、教室会議で定期的にケース会議等を行っている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11	1	0	面談する機会を(保護者)増やしたり、定期的にアセスメント表を見直しを行っている特に保護者様の生活状態についても出来るだけ寄り添っていくことに努めている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	9	3	0	意識して取り組んでいる。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	1	0	責任者と常勤と共に参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	12	0	0	電話や訪問にて児童の支援の情報交換を行えるように関係性を築いている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	6	4	医療的ケア児がいないが、必要があれば専門家や主治医の意見を聞いて体制を整えていきたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	11	1	0	必要性を感じるが情報共有までには至っていないことがある。必要に応じて多様な間で情報共有を行い、理解する事に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	1	3	まだ卒業者がいない。今後対象者には支援の情報共有が出来る様に務める。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	5	1	専門機関との連携がとれていないため、今後は助言などを受け、連携していけるように努めていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1	7	交流の機会がないため、長期休みなどを通して交流を深めていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	6	3	最近参加できていない。地域支援の為に今後参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0	0	送迎時や連絡帳にてその都度情報を提供し、共有することに努めている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	10	2	0	ペアレントトレーニングを形として今後取り入れていきたい	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	1	0	契約の際にご説明をさせて頂いている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	0	0	随時相談を受けアドバイスや助言を行っている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4	7	保護者会等は行っていない。今後行っていけるよう努めていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11	1	0	適切に対応させて頂いている
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	1	0	月に一度、活動や行事についてのお知らせを配布している。
	35	個人情報に十分注意している	11	1	0	外部に漏れないように厳重に管理している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	0	「連絡ノート」でのやりとりをさせて頂いている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	8	地域に根付いてきていないため、今後はイベントなどを通して地域の方にも参加していただけるような取り組みをしていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	3	0	保護者に文章として配布されていないため、今後は必要に応じて配布していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	1	0	避難する際に必要なものとしての準備はある程度できているが十分ではない為取り組んでいきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	0	教室会議や全体研修時に研修を行っている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11	1	0	記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	1	0	アセスメント表や別表にて周知し適切に対応している
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	1	1	「閲覧コーナー」「連絡ノート」にて共有している。